

現役より 苦難と成長の一年

64期 ベロワ マリヤ

授業形態や人々の日常生活が大きく変わり、コロナ禍二度目の夏が終わりを迎えようとしています。昨年に引き続き、ワンダーフォーゲル部の活動は決して楽なものではなく、部長として思案に暮れる日々が続きました。テントや寝袋、五日分の食料を詰め込む巨大なザックは一年生の夏合宿以来クローゼットの奥で洋服に埋もれ、あの重たいけれど最高に充実感に満ちていた感覚も忘れかけています。宿泊や他県への移動が制限されたために、大自然の中で仲間たちと非日常世界を味わうというワンゲル本来のあり方とは反対に、いつもの見慣れた教室でミーティングをするという活動が中心となってしまいました。

山に登りたくて、星空が見たくて、山頂でカップラーメンを食べたくて、そんな思いで入部してくれたたくさんの部員に、山の魅力に触れる経験をさせてあげられなくてやり切れなさを感じます。しかし、そんな難しい状況の中でも、ワンゲルとして二度の山行を実施することができ、どちらも印象に残るものでした。

1つ目は、山中温泉付近に位置する富士写ヶ岳です。ワンゲルとしては珍しい冬の山行で、慣れない厚着の服装をどうするか悩んだことを覚えています。一、二年生合計12名で出発し、滑りやすい落ち葉の道や、鎖場をクリアしながら山頂を目指しました。元気が有り余っているせいか帰りは小走りで下り、トレイルランニングのようでした。下山後には鶴仙溪や温泉街など山中の名所を散策し、さらに部員との距離が近くなったのを感じました。そしてもちろん、登山後の温泉は格別で、入浴後のメンバーには大満足でやりきった表情が見られました。

この山行は、黒崎敏男様をはじめとするOB会の方々の支援によって、バスやその他の費用を賄うことができました。久しぶりの山行を不自由なく実施することができ、OB会の皆様には心より感謝申し上げます。



富士写ヶ岳・2020年12月7日

2つ目は、七月に開催した医王山新歓登山です。富士写ヶ岳とは反対に、焼けつくような日差しのもと、これでもかと緑が生い茂る夏山に登りました。熱心な二年生による新歓活動のおかげで想像を遥かに超える新入部員を迎え、三日に分けて山行を実施しました。登山前のミーティングではパーティや役割決め、もしものことを想定した救助の方法などを学習し、万全の準備で臨みました。

登山当日、私のパーティは鎖場が続くトンビ岩を経由後、夕霧峠で昼食を取り、山頂の奥医王山に向かいました。鎖場は標高も高く、険しい崖だったにもかかわらず、新入生は平気な顔でスラスラと登り、上回生を驚かせました。そして、登山中はずっと互いの話で盛り上がり、終盤でも和気あいあいとした雰囲気広がっていました。



医王山・2021年7月18日

この新歓登山では、主役だった一年生はもちろん、二年生の成長も強く実感できるものでした。

初めてパーティのリーダーとして登山計画を立て、コンパスと地図を片手に先頭を歩く姿は非常に頼もしかったです。途中、出発地点を変更したり、体調不良者が出たりした時でも、臨機応変に対応し、安全でスムーズな登山となりました。翌日のミーティングでは、たくさんの部員が登ってよかった、気持ちよかったと意見交換し、良い形で今年度の登山をスタートできました。

以上二つが、ワンゲルで行った主な登山活動です。例年と比べ、頻度やそのスケールは縮小しましたが、みんなが自然を好きなことや、学年の枠を超えて協力しながら楽しめることといったワンゲルの本質は共通しています。先行きが見えない状況ですが、これからも歴史ある金沢大学ワンダーフォーゲル部がずっと続き、現役部員やOBの方々が誇りに思う部活動として成長し続けることを祈っています。残りわずかではありますが部長として最後まで尽力し、新体制になるワンゲルの今後の活躍にも強く期待します。

(10月から水谷冠太さんが新部長に就任されています。)

